

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2025 年 5 月 30 日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	明治大学経営学部経営学科
留学(渡航)した時の学年	2 年生
帰国年月日	2025 年 5 月 23 日
明治大学卒業予定年月	2027 年 3 月
留学先大学について	
留学先国	アメリカ
留学先大学	ニューヨーク州立大学バッファロー校(日本語名) University at Buffalo, The State University of New York (現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/ 英語
留学期間	2024 年 8 月～2025 年 5 月
留学先大学で在籍した学年	2 年生
留学先の所属学部等	☐ 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称: ☒ 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している ☐ その他:
形態	☐ 国立 ☒ 公立 ☐ 私立 ☐ その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 8 月下旬～12 月中旬 2 学期: 1 月下旬～5 月中旬 3 学期: 4 学期:
学生数	29,850 人
創立年	1846 年

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (ドル \$)	日本円	備考
授業料	0 \$	0 円	交換留学のため
宿舍費	9,685.76 \$	1,452,864 円	
食費	5,000 \$	750,000 円	ミールプランと自炊代含む
図書費	0 \$	0 円	オンラインからデータを拾って教科書を用意したため。
学用品費	0 \$	0 円	
携帯・インターネット費	400 \$	60,000 円	もっと安い SIM もありました。
現地交通費	0 \$	0 円	教養娯楽費に含めました。(☑大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	6,666 \$	1,000,000 円	
被服費	0 \$	0 円	雑費に含めました。
医療費	0 \$	0 円	雑費に含めました
保険費	1,702 \$	255,260 円	形態：現地の大学での加入したものと明治大学で加入したもの
渡航旅費	1863 \$	279,580 円	
ビザ申請費	405 \$	62,000 円	
雑費	5,000 \$	750,000 円	大学から設備費のようなものも請求されたため寮費以外にかなりかかりました。
その他	\$	円	
その他	\$	円	
合計	30,731 \$	4,609,704 円	概算のため、目安として参考にしてください。

渡航関連

渡航経路

往路 出発地:羽田空港 目的地:バッファローナイアガラ国際空港 経由地:ワシントンダレス国際空港

復路 出発地:バッファローナイアガラ国際空港 目的地:成田空港 経由地:ロサンゼルス

渡航費用

① 往復チケットを購入した場合
航空会社:

料金:

② 片道ずつチケットを購入した場合
往路 航空会社:ハワイアン航空 料金: 209,580

復路 航空会社:ZipAir 料金:70,000 ∴合計:279,580

航空券購入方法

☐ 旅行代理店(店名:)

☒ インターネット(サイト名:Skyscanner)

☐ その他()

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舍等)

☒ 学生寮(寮の名前:エリコット) ☐ アパート ☐ ホームステイ

2) 部屋の形態

☐ 個室 ☒ 相部屋(同居人数 4 人)

3) 共有部分

☒ バス ☒ トイレ ☒ キッチン(☒ 自炊可 ☐ 自炊不可)

4) 住居を探した方法:

大学のホームページ

5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

現地時間に合わせて申し込みをしたので、深夜まで起きていました。すぐに埋まってしまうので事前に調べておいてから申し込みをするとスムーズに進めると思います。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

☒ なし

☐ あり (治療を受けた場所:)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

☐ なし

☒ あり (問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

在留届を出しておく定期的に大使館または領事館から注意喚起を促すメールが来ます。また、現地の大学からも大学近辺で起きた事件に関する情報をメールで流してくれるのでそういったものをしっかりと目を通すようにしていました。特に、大きな犯罪や事件に巻き込まれることはありませんでしたが、このケースに遭遇したときに対応できるように非常時に対応してくれる機関の電話番号を控えておいてました。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

特に問題なかったです。寮とキャンパスにはそれぞれWi-Fiもあり問題なく接続ができました。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

Wise アカウントというアプリで口座を開けて円とドルをアプリ内で両替していました。これは日本でできたので日本でお金回りのことは済ませることができました。定期的に親に自分の口座にお金を入れてもらっていました。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。

基本的に揃わないものはあまりないかなと思います。強いて言うなら、調達できないわけではないですが、寒い地域だったのでヒートテックを日本からたくさん持っていきました。(当時は日本で買う方が安かったから)

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
29 単位	☒ 29 単位 ☐ 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限 ☒ 出発前 ☒ 出発後 ☒ 派遣先大学の事務室 ☒ オンライン ☒ メール ☒ その他(全てにチェックを入れていますが、どのタイミングからでもできるということと授業開始から一週間の間は修正ができることを示しています。) ☒ 履修の制限があった: 基本的には現地生の履修が優先だったと思います。	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Business and Society	ビジネスと社会
科目設置学部・研究科	MGG150
履修期間	春学期
単位数	3
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	lecture(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 50 分が 3 回
担当教授	Daniel Liebel
授業内容	パワーポイントの資料をひたすら解説
試験・課題等	学期末テスト、オンラインクイズ複数回、グループワーク、小レポート複数回
感想を自由記入	他の授業が難しかった分この授業は理解しやすく、個人的にはしっかりと内容をさらうことができたと思います。課題が多いですが、しっかりと消化すれば評価はしてもらえるので、とても満足しています。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Introduction to environmental economics	環境経済学入門
科目設置学部・研究科	ECO208
履修期間	秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	lecture(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 50 分が 3 回
担当教授	David Benjamin
授業内容	環境やサステナビリティという視点で経済学を考えるような内容でした。
試験・課題等	隔週でチームプレゼン、中間試験・期末試験、個人ワーク

感想を自由記入	日本語でも知らない概念や専門用語が出てきてかなりハードでした。あとは、教授の話し方にクセがあって慣れるまで大変でした。グループワークは他のメンバーに助けられて、なんとかやり切れました。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)	
Business and Society in North America	北米のビジネスと社会	
科目設置学部・研究科	MGG211	
履修期間	秋学期	
単位数	1	
本学での単位認定状況	1 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	オンライン(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 80 分が 1 回	
担当教授	Naomi Smith	
授業内容	アメリカの航空会社の事例を見てどうしたらシェアを拡大できるかの施策を考えた。	
試験・課題等	プレゼンテーション、毎週のように授業外でのグループワーク	
感想を自由記入	この授業は秋学期の間の半分しか授業がなかったです。そのため、単位数も他の授業よりは少ないです。秋休みには NYC で企業見学をするというフィールドワークの授業だったので、個人的には面白かったです。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)	
Entrepreneurs and Small business	企業家精神とスモールビジネス	
科目設置学部・研究科	MGO330	
履修期間	秋学期	
単位数	3	
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	lecture(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 80 分が 2 回	
担当教授	Thomas Murdock	
授業内容	スタートアップの事例からわかることや起業家紹介	
試験・課題等	クイズ、ビジネスピッチ、小レポート、プレゼンテーション	
感想を自由記入	課題がとにかく多かったので大変でしたが、授業自体は面白く教授も優しい方なのでやるべきことをしっかりとやっていればきちんと評価をしてくれると思いました。他の学生がどんどん手を挙げて積極的に発言しているのが印象的でした。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Introduction to statistics for Analytics		分析のための統計入門
科目設置学部・研究科	MGQ201	
履修期間	秋学期	
単位数	4	
本学での単位認定状況	4 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	ハイブリッド(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 50 分(対面)、80 分(オンラインライブ授業)、60 分(レコーディングされたビデオ視聴)分がそれぞれ 1 回	
担当教授	Dianna Cichocki	
授業内容	エクセル、データ分析の基礎	
試験・課題等	クイズ、グループワーク、個人ワーク(いずれも複数回)	
感想を自由記入	エクセルの基礎の基礎しかなかったもので、かなり大変でした。実際に、説明が英語かつ全く親しみのない統計用語(英語)を用いながらなされるので、他の学生にはあまりお勧めしなないです。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Dynamics of International Business		国際ビジネスのダイナミクス
科目設置学部・研究科	GE0330	
履修期間	秋学期	
単位数	3	
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	lecture (チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 80 分が 2 回	
担当教授	Trina Hamilton	
授業内容	政治や経済が貿易やその他のビジネスに与える影響について考える。	
試験・課題等	クイズ、グループワーク(授業内のみ)、レポート	
感想を自由記入	授業内容がアメリカ視点から見ての国際ビジネスだったので、今までとは違った目線で政治経済や貿易について勉強することができた。授業内容としてもわかりやすく、教授もとてもやさしかったです。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Introduction to Financial Accounting		財務会計入門
科目設置学部・研究科	MGA211	
履修期間	春学期	
単位数	3	
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	lecture(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 50 分が 3 回	
担当教授	Diana Dolan	
授業内容	予習してきた内容を講義で解説する形式。	
試験・課題等	毎週オンラインで小テストと学期に二回のテスト。	
感想を自由記入	内容としては日本の簿記 3 級くらいの難易度の内容を英語でやります。2 級の知識も多少出てきますが、おおむね 3 級の理解があれば大丈夫だと思います。授業前に毎週動画を見て参加しないといけなかったので分量という点では少しハードでした。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
American Business History		アメリカ経営史
科目設置学部・研究科	HIS211	
履修期間	春学期	
単位数	3	
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	lecture(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 80 分が 2 回	
担当教授	Cari Casteel	
授業内容	様々な切り口からのアメリカのビジネス史	
試験・課題等	試験なし・リスponsペーパー×3・リフレクションペーパー・リサーチペーパー	
感想を自由記入	教授がスライドを使いますがそのスライドも共有してもらえないため、授業の時にスライドのメモをしないとイケなくて大変でした。内容としては歴史ということもあり少し古い話が多かったです。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Project Management		プロジェクト管理
科目設置学部・研究科	MGO364	
履修期間	春学期	
単位数	3	
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	lecture(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 80 分が 2 回	
担当教授	Scott Ptak	
授業内容	毎週の課題に必要な知識や考え方の講義	
試験・課題等	毎週授業内容に関する課題と学期に二回のテスト	
感想を自由記入	学生が少ない授業だったので、教授は一人一人の学生に親身になってくださる方でした。使われている英語はシンプルでしたが、扱っている内容がいくらか複雑で理解できなかった箇所があった。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Business, Sustainability, & Society		ビジネス、サステナビリティと社会
科目設置学部・研究科	EVS443	
履修期間	春学期	
単位数	3	
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	Seminar(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 80 分が 2 回	
担当教授	Adam Rome	
授業内容	予習内容を踏まえてディスカッション。	
試験・課題等	レポート複数(4-5 回)	
感想を自由記入	正直、この授業は周りの学生のレベルやディスカッションのアウトプットの質が高くてついていくのが大変でした。ただ英語を運用して話せばいいわけではなく、発言の質の高さが大切でした。教授が非常に丁寧な方だったので、課題等で困ることはなかったです。	

卒業後の進路について

1) 進路 ※3 年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記 2 以降は記入不要)

☒就職 ☐進学 ☐未定 ☐その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。
内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。
就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1 月 ~ 3 月	高校卒業 & 大学進学準備
	4 月 ~ 7 月	大学入学、TOEFL の勉強開始、その他の情報収集
	8 月 ~ 9 月	TOEFL 受験、出願先の候補決め
	10 月 ~ 12 月	出願書類の準備、出願、面接、選考結果通知
留学開始年	1 月 ~ 3 月	派遣候補先への出願(2~3 月にかけて)
	4 月 ~ 7 月	入学許可書の受領、VISA 申請、航空券 & 住居の手配
	8 月 ~ 9 月	出発
	10 月 ~ 12 月	10 月下旬中間試験、12 月中旬期末試験、冬休みスタート
留学/帰国年	1 月 ~ 3 月	冬休み終わり & 春学期
	4 月 ~ 7 月	帰国
	8 月 ~ 9 月	明治大学での秋学期(予定)
	10 月 ~ 12 月	就職活動(予定)

留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生生活全般等について、アドバイスを記入してください。

—留学先を選んだ理由—

私がバッファロー校を留学先を選んだ理由は大きく分けて二つあります。一つ目は、自身の専攻分野である経営学の授業が豊富にあり、大学院を含めた経営学部自体も大きかったためです。留学する際に、自身の専攻分野の授業を幅広く履修できる環境を私は重視していました。留学してからわかったことですが、フィールドワークでニューヨーク市やシカゴで企業訪問ができる授業があり、実際にニューヨーク市でのフィールドワークの授業に参加し、貴重な経験を積むことができました。また、履修に関しても財務、貿易からスモールビジネスなど興味の赴くままに授業を履修することができとても充実したカリキュラムを組むことができました。二つ目は、アメリカという政治や経済などの面から良くも悪くも影響力が強く、日本にも強い影響力がある国で留学生生活を送りたいと考えたためです。実際の学生生活や授業を通じてその一端を十分に感じることもできたとともに、メディア媒体だけでは得ることができないものを見ることができたことは、偏に情報過多の世の中で必ず生きてくるものになると考えています。もちろん国を問わずこれらの感度を養うことは可能なためポジショントークにはなりますが、これらのことをアメリカ留学を感じることもできたので選択の仕方としては良かったと考えています。

—宿舎選びについて—

私は当初、一人部屋あるいは個室がある寮やアパートメントを探していました。しかし、申し込みの段階で複数人部屋しか選択肢になかったため、四人部屋で寝室が二つに分かれている部屋を選択しました。住居についてはおそらく多くの方が迷うと思いますが、個人的にはルームメイトと仲良くなれば楽しいので、複数人部屋をおすすめしたいです。ただ、注意点としては誰と同じ部屋になるか分からないというところで、若干のギャンプル要素があるので難しいです。実際に、私も最初はコミュニケーションやルームメイトの習慣に慣れないこともありましたが、これも留学の一部だと割り切って楽しんでいました。結果的に、ルームメイトとは留学が終わった今でも連絡を取り合うほど仲良くなることのできたので、複数人部屋でよかったなと思いました。一方で、私の隣の部屋は夜中までゲーム等の騒音がひどかった部屋だったので、部屋によるという点については注意してください。ただ、基本的にどうしても耐えられない場合は学期中に部屋の変更手続きができるので、恐れずに複数人部屋等でルームメイトとコミュニケーションが取れる環境を選択するのもいいと思います。

—今後留学を検討する方—

私が今後留学を検討する方に伝えたいことは、英語ができない、嫌いという理由で興味のある留学を諦めないでほしいということです。もちろん語学の面以外にも多くの障壁があると思いますが、少なくとも語学を言い訳に諦めてほしくないと強く思います。実際に、自分の周りでも英語が得意じゃない、資格試験の勉強がめんどくさいなどの理由をつけて断念する学生がいました。少し自身の話に焦点を当てると、私はもともと英語が得意ではなくかなり苦手意識がありました。特に、リスニングにおいては壊滅的で大学入学時に受けた TOEIC もトータルのスコアが 500 点でした。今思うと、周りには英語ができる学生が多く個人的には焦っていた時期も多々ありましたが、しっかりと対策をすれば資格試験に関しては一定のスコアを超えることができるので、必要以上に壁を感じなくて大丈夫だったと感じます。むしろ、語学を言い訳にこのような貴重な機会を逃すのはとてももったいないと思うので、是非チャレンジしてみてください。

—今後留学を控える方へ—

よく留学と聞くと英語の上達やベラベラに話せるようになるなどのそれ相応のリターンを期待している人は多いと思います。しかし、個人的に大事にしてきたのは留学先の生活において何を見てそれをどう感じたかということです。昨今の英語ツールの発達や凄まじく、革新的なアイテムで英語学習においても効率化がどんどん進んでいます。それに伴い、日本国内でも英語を高水準で運用する能力は十分に習得できると思います。しかし、日本人に囲まれている環境から抜け出し、色んな考え方や困難に直面していく中で、その度に自分なりに解釈して消化するという過程はきっと留学だからこそ得られる何事にも代えがたい貴重な経験だと思います。そのため、目先の英語力の上達に縛られずに、とにかく色んなことに足を踏み入れながら、時にはたくさんのアクシデントを経験することで、自分の本当に大事にしたいことやこだわりを見つけられる留学生生活になればそれはとても価値あることだと思います。

—最後に—

拙い文章となりましたが、ここまで長々と読んでいただきありがとうございます。留学生生活の食事や授業の細かい点については留学中間報告書に記載されているので、気になった方はそちらも合わせてご参照ください。これを読んでくださった学生が少しでも留学に興味を抱き、彼らの留学準備が充実したものになれば嬉しいです。